

## 地域連絡会議地域部会 今後の取組に関する意見について（奄美大島部会）

区分	意見
推薦区域等	<p>・IUCNが提唱するエコロジカルネットワークの観点からも、今回の指摘からも、全市町村の保有する市町村有林をエコロジカルネットワークのコリドーまたはバッファゾーンとして保全していく表明を全首長にしていきたい。</p>
外来種対策	<p>・ノヤギについては全島的な調査に基づいた駆除を実施していきたい。</p>
	<p>・ノヤギ駆除を本格化するべき。</p>
	<p>・ギンネム、ホテイアオイなど、侵略的外来種である植物の駆除を本格化すべき。</p>
	<p>・「外来種対策の推進」については、特定外来種駆除は、国、県、市町村並びに保護団体などで取り組んでいるが、駆除は繁殖に追いつかず、たちごっこ状態。手つかず状態の地域も多い。地下茎で繁殖し、駆除が困難なスギナのように行政が在来種との認識で放置されている外来種もある。</p>
	<p>・これまでに島内に持ち込まれた代表的な外来種のマングースはよかれと思い、十分に検討しないまま野外に放たれた。ヤンバルトサカヤスデも島外から持ち込まれた苗木について卵から発生した。発生当初、注意を促したが相手にしてくれず、広範囲に蔓延して初めて慌て出した。道路工事の法面吹きつけにも、長年、外来植物の入った資材を使用し続けてきたため、多種の外来種が分布を広げつつある。</p>
<p>・外来種の蔓延状態や経緯を振り返って考えると、外来種に対する知識や情報の不足と対処の遅れが蔓延を招いた大きな要因だと思う。対策として①学校や地域などで外来種侵入の現状や効果的な駆除対策についての学習、情報交換、②法面吹きつけ工事での在来種入り資材の使用、③公園などに植栽する樹木は、地元で調達可能な樹種は地元で育成、④造園業者、土木業者に対する外来種問題についての啓発、指導などが挙げられる。</p>	
<p>・外来種問題の解決が手遅れにならないよう、外来種の分布状況の調査を行い、集落に説明をし、市民清掃にあわせて住民全体で継続的に駆除していく体制が整うと、外来種駆除と世界自然遺産についての理解の一石二鳥の効果があると思う。</p>	

観光管理	<p>・観光計画が先行している。</p>
	<p>・観光開発計画及び訪問者管理計画の策定について、今後の動向を注視したい。</p>
	<p>・環境保全、観光環境整備、エコツー推進並びに島内全体の観光振興推進(あまみ大島観光物産連盟の財源確保)の検討も必要ではないか(法定外目的税、TID(Tourism Improvement District:観光産業改善地区)など)</p>
	<p>・湯湾岳宇検村側登山道の利用規制について早急に検討していただきたい。 ※この登山道は、地表に露出した木の根を踏んで歩く部分が多い。また途中に絶滅危惧種の草本植物の生育している場所もある。観光客の増加により、それらが踏みつけにより傷つけられたり、最悪消滅してしまう恐れもある。</p>
	<p>・湯湾岳宇検村側登山道について、早急に検討を開始するべき。この登山道は地表に露出した木の根を踏んで歩く部分が多い。また、途中に絶滅危惧種の草本植物の生息している場所もある。</p>
	<p>・奄美大島ではナイトウォッチングツアーが三太郎峠一帯に集中している現状があり、このエリアの夜行性動物は人間によって本来の行動をかなり抑制されている可能性がある。永続的にこの地域で野生動物が安心して生息できるよう、スタルマタ線への夜間立ち入り禁止(具体的な時間帯、期間などは要検討)など何らかの規制を検討していただきたい。</p>
	<p>・実効性のある観光管理の仕組みについては、コアゾーンである湯湾岳の頂上近くで行われている観光ガイドは規制が必要と思う。</p>
モニタリング	<p>・ガイドの内容に関して検討すべき(自然だけでなく歴史と文化にも触れるべき)。</p>
	<p>・絶滅危惧種や固有種などの総合的なモニタリングの実施は大事だが、海も含めて生物総合調査が不十分ではないか。最近の調査でも新産地や新記録種が出てきている。</p> <p>・ミサイル基地建設地とその周辺の生態系調査と保護対策。</p>

	<p>・「絶滅危惧種の状態・動向、及び人為的直接影響及び気候変動による影響に焦点を当てた総合的モニタリングシステムを完成し、採択すること。」について、平成30年3月の奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然候補地科学委員会奄美WGで素案が示され、議論がなされたところであるが、今後の検討の進め方や計画策定までのスケジュールについてご教示いただきたい。</p>
管理(職員)体制	<p>・地元採用の職員の配置あるいは1つの国立公園に長期在籍可能なシステムを作るべきではないか。</p>
施設	<p>・世界自然遺産を視野に入れ展望施設などが計画されているが、そうした建設費用を遺産候補地の「保護」に関する作業にまずはあてるべき。</p>
その他(全般的に)	<p>・環境保全に関する実態がない(いつまでも、ボランティア頼りになっている。)</p>
	<p>・資源を守る具体的な策がない。</p>
	<p>・「延期」の主な理由の①については、国、県、市町村及び環境に関わる諸団体で指摘事項について詳細に分析、吟味し、基準に該当するよう対策を講じてほしい。</p>
	<p>・何のための世界自然遺産かの目的をきちんと整理し、周知徹底すること。観光と地域振興は目的ではなく、結果としてもたらされるもの。</p>
	<p>・自然の保護と活用の課題を国立公園の枠組みの検討と線引きにとらわれることなく周辺海域を含めた島嶼全域を対象に議論すること。</p>
	<p>・自然とかかわりの深い奄美の文化を加えること(かつて自然と文化の両方の要素を兼ね備えた複合遺産を提唱したことがある。)</p>
	<p>・奄美諸島周辺での海砂採取を止めさせること(吹上浜での採取は反対の声が上がってから止めている。)</p>
	<p>・海域への赤土流出防止の徹底と採石の島外持ち出し禁止。</p>